NO.

DATE

傍聴者の方々からの声

1. 市は、市民と十分な直接対話を行わず、独自のビジョンで計画を進めてきたと思う。

2. 懇談会が市民と市の信頼回復のために一定の役割を果たしたことは評価できる。

3. 傍聴者（日常的に公園を利用している人が多い）は、自分たちの声が十分に市へ届いていないと感じている。

4. 懇談会冒頭で「PFI事業は既成事実ではない」との説明があったにもかかわらず、今年3月市と事業者の間で基本協定が更新されたことは、市に対する信頼を損なうものである。

5. 「公園をより安全にするには」とか「公園をより良くするには」という枠組みの議論ばかりで「現状の公園は、すでに非常に安全で良好な状態であり、大規模な再整備は不必要」という枠組みの議論がほとんどなされていないと思う。

6. ファシリテーターが紹介した他の公園の事例は、主に大規模なインフラを持つ都市公園のものであり、城北公園のような地区公園には、そのままあてはめるには無理がある。

7. 地区公園から拠点公園への転換が前提とされており、この根本的な変更について住民や懇談会メンバーとの議論が不十分であり、公園の定義や目的こそがもっと議論の中心になるべきである。

8. 大学研究者として、市の許可のもと、Aエリアと Bエリアの利用者にインタビュー調査を行っている。まだ中間段階であるが、表現に次のような傾向が見られる。
   - 「心地よい場所」、「のんびりできる場所」等の表現が多い。
   - ここが駐車場等になることに対しては、「絶対にいや」「悲しい」、「今の形をくずされたくない」等悲しみ、戸惑い、やるせなさ、不安、残念、等の気持ちの表現が多い。
   - 現状のまま緑地を大切にしたい、という表現が多い。

9. 公園へのアクセス向上自体は反対すべきものではないが、美しい緑地を駐車場や施設等に変える発想は、本末転倒で、公園の魅力を損ない、利用者への危険を高めるだけである。

10. 市と事業者との間で、5年間にわたり、どのような方法で意志疎通が図られてきたのか。行政文書をきちんと交わしているのか、それとも単なる電話のやりとりだけなのか、その実態を知りたい。

KOKUYO